

丸協にゆーす

- 祝・新入社員入社
- 丸協トピック
「第4回関西物流展出展」
- 今、知っておきたい物流topics
『一般ビジネス誌でも2024年問題が
とりあげられています』

祝・新入社員、入社！

4月3日（月）に入社式が行われ、今年度は 丸協大阪3名、丸協愛媛4名の新入社員が入社いたしました。

渡部智社長からの「丸協運輸は、社会の為、国家の為、また従業員さんの幸せの為に物流という仕事をしている」というお話があり、“自分も丸協の先輩方と一丸となって協力して早く一人前のプロとして仕事ができるようになりたい”、と決意している方もいらっしゃいました。

2日間の研修では、社会人として働く基礎的な考え方、コンプライアンスなどの研修、電話対応や名刺交換など実践に近い形での研修も行われました。

共配大阪	中
東大阪センター	本田
本社管理部	平岡
愛媛営業所	西岡
愛媛営業所	藤岡
共配愛媛	金崎
共配愛媛	成谷



4月12日～14日インテックス大阪にて開催された「第4回関西物流展」に出展致しました。

今回は物流業界で大きな問題となっている

「**2024年問題**」の対応相談をメインとしたブースとしました。約110社程の荷主様と商談しましたが、「2024年問題」は知っているが、何をどうすればいいかわからない、という未対応の荷主様が多いと実感致しました。

また、今回は関東・関西・中四国の丸協メンバーが参加し、「初参加でお客様と数多く触れ合う中で物流課題を直接伺える機会が持てたことが良かった」、「普段直接会わないメンバーも含めてALL丸協で取り組み、非常に勉強になった」という感想がありました。

来年の第5回関西物流展にも出展予定です。次回は更に展示内容も充実させ、また大きな収穫が得られる展示会にしていきたいと思います。



2024年問題

- ✓ 長距離輸送が多い
- ✓ ドライバーが荷役作業を行っている
- ✓ 運賃高騰への対策が不十分

それ危険かも！？
今すぐ対策を！



2024年問題とは

※ 国土交通省が発表している輸送コストの推移から、2024年問題とは、輸送コストの急激な上昇を指す。

※ 内陸輸送コスト（トラック）は、過去10年間で約1.5倍（※1）に上昇している。

※ 関西圏内輸送コスト（トラック）は、過去10年間で約1.5倍（※2）に上昇している。

2024年問題の主な影響

労働力の不足
1日1回の作業
作業効率の低下

丸協運輸が実施している対策

運行ルートの変更、荷役作業
ミーティング、運賃高騰の対策
荷主様との相談、作業効率の向上
運賃高騰の対策

一般ビジネス誌でも2024年問題がとりあげられています

次世代を担うリーダーに向けたビジネス・オピニオン誌を標榜する「ウェッジ」2023年5月号にて、2024年問題や物流危機について特集がなされています。ウェッジは独自の取材・視点により、問題を深掘りしてくれるため、興味深い雑誌です。NHKニュースに続き、一般誌でも取り上げられることが増え、あまり意識の低い荷主においても関心を持たざるを得ない状況に近づいているかと思われます。

西濃運輸社長の記事では「かつては荷主が上に立っていたこともあったが」認識が変わってきていると書かれています。本来、荷主と物流事業者はビジネスのパートナーであり、相互にリスペクトがあって然るべきで、上下関係で捉えるのはおかしいことです。

「明日届く」は必要なのか、という問題提起もされています。ヤマト運輸の宅急便も4月17日、関東—中国・四国などの一部地域について、宅急便の配達を「翌日」から「翌々日」に伸ばすと発表しました。輸送リードタイムを伸ばすことで、物流現場では様々な生産性向上を実現することができます。

ウェッジ記者が実際に倉庫を取材した様子も興味深いです。我々には当たり前のことですが、長時間にわたる手積み手荷役や倉庫内の付帯作業は驚きの実態のようです。一般の方にも物流の実態が知られることにより、より一層、改革に取り組みやすくなると想定されます。2024年問題は、現場の非効率について、荷主を巻き込んで改善するチャンスと言えるでしょう。

